最上町立最上中学校の２年生が
大正大学との繋がりで学んだ事

所属：大正大学 地域構想研究所 最上支局
氏名：金田　綾子

最上町では少子高齢化が進み、令和５年度現在以前は４校あった中学校が１校に、８校あった小学校も閉校を余儀なくされ２校になっています。

最上町で唯一の中学校である最上中学校では１年生の時から総合的な学習の時間に**「ふるさと学習」**の時間を設け、**自分達が住んでいる地域の魅力を調べ、郷土に誇りや愛着心を育み**、ひいては将来、最上町に戻って来てもらいたいという願いを込めて授業を行っています。

その一環で中学２年生では最上町について調べた事を都会の人にＰＲして、最上町の事を広く知ってもらい、交流人口拡大の一助になればという目的で、10年以上前から**修学旅行の場でＰＲ活動**を行っています。

修学旅行の場で東京の商店街でＰＲ活動を行う事は当初は、アンテナショップ「とれたて村」との関係で最上町の友好都市である板橋区のハッピーロード大山商店街で実施していましたが、コロナ禍の影響もあり、ここ数年は関東方面への修学旅行も中止になっていました。

最近になってコロナもようやく終息の兆しが見えてきて、２年前から関東方面への修学旅行が再開されるようになりました。

そのような経緯の中で、巣鴨地蔵通り商店街にできたアンテナショップ「ガモールマルシェ」にも最上町が参加させていただいている事や、地域創生学科の学生や公共政策学科の学生を地域実習で受け入れてきている事もあり、**最上町のＰＲ活動だけでなく大正大学との繋がりの中で大学生との交流も重要ではないかと考え**、最上中学校に大正大学周辺での修学旅行の活動を打診してみたところ、快諾を得て実施に至りました。

公共政策学科の学生がフィールドワークで最上町を訪れた際、最上中学校の総合的な学習の時間に大学生から授業に出てもらい、大学の紹介をしてもらったり、ＰＲ活動についてアドバイスをしてもらったりして、中学生が将来の進路を考えた際、大学生と触れ合う機会を得た事は中学生にとって大変刺激になった事と思います。

修学旅行の当日は10月というのに大変暑くて、最上町の特産品であるアスパラガスをモチーフにしたマスコットキャラクターの「アスパー君」と「パラミちゃん」を身に付けた人は汗だくになり大変だった事と思います。

二班に分かれて、大学の北條先生から最上町と大正大学「巣鴨プロジェクト」との繋がりを講義して頂いたり、最上町から唯一地域創生学科に進学している学生から話を聞いたり、公共政策学科の学生も駆けつけてくれ、一緒に学生食堂で昼食をとったり、有意義な時間を過ごす事ができました、

「ガモールマルシェ」で販売している最上町の特産品をお客さんに説明したり、最上町をＰＲするパンフレットを配ったり、中学生からは、商店街を通る人や、買い物客が中学生の説明に興味を示してくれたとか、思っていたより都会の人は割と親切だったという感想も聞かれ、やりがいや、充実感を感じ取る事ができて良かったなと思いました。

次回からは「ガモールマルシェ」の一角をお借りして、中学生が自分たちで選んだ特産品を自分たちが販売できればいいなと考えています。

身近な所に大学がない最上町の子ども達が大学生と一緒に最上町の魅力をＰＲできたことは、将来の進路を考える上での一つの指針になってくれればと考えています。